

リーダー通信



2024年 | 3月発行 | Vol.5 団の組織運営を担う指導者の研修講習1年間をふりかえります

発行:組織広報委員会



リーダー養成講習 B テンダーフット部門

6/23 盛岡市 フラップいわて
受講 3名
(P.1)

リーダー養成講習 B ブラウニー部門

9/3 矢巾町 やはぱーく
受講 3回2名
(P.2 上)

北海道・東北地区 成人研修会 ガールスカウトマルシェ

10/21-22 秋田県秋田市
岩手県からの参加 2名
(P.2 下~)

指導者研修会 「自分のからだを知ろう、 守ろう」

7/9 盛岡市 いわて県民情報
交流センター アイーナ
受講 10名
(P.3 下~)

指導者研修会 「多様な性の理解と支援」

3/3 盛岡市 いわて県民情報
交流センター アイーナ
受講 15名
(P.4)

梅雨の晴れ間 童心にかえて楽しく学びました

6/23(日)盛岡市「フラップいわて」を会場にテンダーフット部門リーダー養成講習会を開催し、3名のリーダーが認定されました。

当日は、他の部門と同じくテンダーフット年代の様々な特徴を確認。写真にあるように、就学前1年児の身長と等身大の絵を模造紙に書き、体の各部分について何ができて、何がむずかしいかを記入していきました。また、少女たちを取り巻く環境について考え、そのような中で「どんな少女に育って欲しいか」の意見を出し合いました。発達課題を学び目指す成長に自分がどのように関わられるかも考えました。

“育成目標”「豊かな感性を持つ」
“活動の重点”「五感を使って楽しく遊ぶ」
「好奇心をのばす」

人格形成の土台となるこの年代に“豊かな感性”を育成することが、ガールスカウトが目指す全人教育によって大切であること、五感、運動感覚の発達が著しいため“五感を使って遊ぶ”ことによって発達を促すこと、情緒の分化・ことばの発達が著しいため、新しいことへ挑戦したい気持ちが高く“好奇心をのばす”必要があることをしっかり確認しました。

あいまには、新聞紙で作った玉で玉入れ(紙を丸めるのも、ねらった所に玉を入れるのもテンダーフットにとって大事な発達のための作業です)や、6月の梅雨の晴れ間に、気持ちがわくわくする紙皿利用のカラフルな雨傘のクラフトやビニール袋利用のドレスを作り、ファッションショーを楽しむなど、童心にかえて楽しく学びました。

団に協力したいという気持ちから 部門リーダー資格取得へ

9/3(日)矢巾町「やはぱーく」において、3団からの要請でブラウニー部門のリーダー養成講習会を開催し、保護者から2名の新規リーダーが誕生しました。

昨年3団は保護者他対象のA講習を実施されましたが、その中で、県連や団の歴史にふれた時、「歴史のある団の会員として協力したい」と、受講を決意した参加のおふたり。ご自分のお子さんがガールスカウトを通して変化した理由が理解できたとお話ししていました。

“育成目標”「自分を表現する」

“活動の重点”「楽しくチャレンジ」

読み書きの言葉が著しく発達し、情緒が穏やかになる年代であるため、自分の言葉や自分なりの表現方法で思いや考えが伝えられるようになること、運動能力、精神的発達が著しい時期に、新しいことにチャレンジすることで、物事に対する意欲が高まることをふまえて、親目線とリーダー目線の違いも話し合いました。

パトロール活動のこと、3つのポイントのこと、ユニフォームのこと、バッジシステムのこと、また、ブラウニー部門リーダーとして集会の企画の仕方を学び、団集会の企画書を作成しました。(その後聞いたお話では、団集会を何度か任されたと、すっかりリーダーとして活躍されています)

「自分がリーダー資格を取ることになるとは考えもしていなかったけれど、団の皆さんと協力して楽しく活動していきたいと思います」と、嬉しい言葉も聞かせていただきました。

別室では、お母さんを応援するスカウトたちがクッキング集会をしていて、手作りランチのおもてなしもありました。団を挙げてのサポートに心から感謝します。

そして、リーダー資格認定取得おめでとうございます！



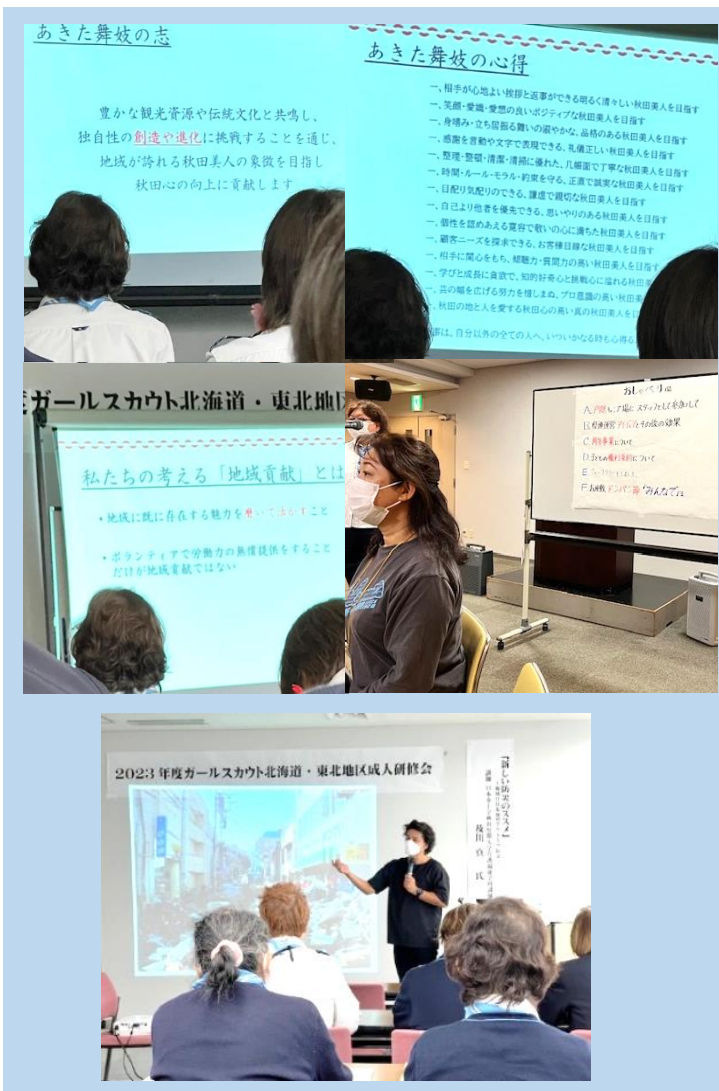
ガールスカウト・マルシェ ～形も色も味もみんなそれぞれ、ガールスカウト～

10/21(土)22(日)秋田県秋田市において、北海道東北地区成人研修会、「ガールスカウト・マルシェ～形も色もみんなそれぞれ、ガールスカウト～」が、開催されました。岩手県連盟からは、高橋連盟長と菊地 트레이ナーが参加。地区40名を超える参加となりました。

女性とその可能性を最大限に発揮できる社会環境をつくりあげていくために、成人会員同士の情報交換の中で、そのスキルアップを目指そうと開催された研修会です。

(次ページへ続く)





◎1日目は「あきた舞妓」継承の取り組み成功事例から、組織の継続の参考を学び、夜には、宿舎となった秋田ユースパルで交流会(各連盟の需品販売など)と情報共有おしゃべり場(話したいテーマごとに集まって自由に話したり、聴いたり、質問したり)が行われました。

コラム

かつて秋田初の女性代議士で婦人運動の先駆者として有名な和崎ハル氏が開設した芸妓学校があった。川反芸妓は、あらゆる勉強に勤しみ、芸や教養のレベルが高く、秋田ならではの温かい人柄や容姿の端麗さなども加わり、多くの文化人や財界人に愛され、文豪・谷崎潤一郎はその多彩で美しい川反芸妓の姿を描写し「秋田美人」と表現した。その後、多くの文豪が川反芸妓を表現する言葉として「秋田美人」という言葉を使うようになった。

◎2日目は「防災」について。自らの震災経験をいかして、児童生徒の防災力向上を目指し、各地で「防災キャンプ」の展開をされている 日本赤十字秋田短期大学 講師 及川真一氏からお話をうかがいました。

「自分の命は自分で守る」=自助 「いつ来るかわからない災害だから怖い いつ来ても良いよう学ぶ」「防災意識を日常に！」=そなえを教えているとおっしゃっていたことが印象的でした。まさにガールスカウトが日ごろから行っているもの。その大切さが実証されています。

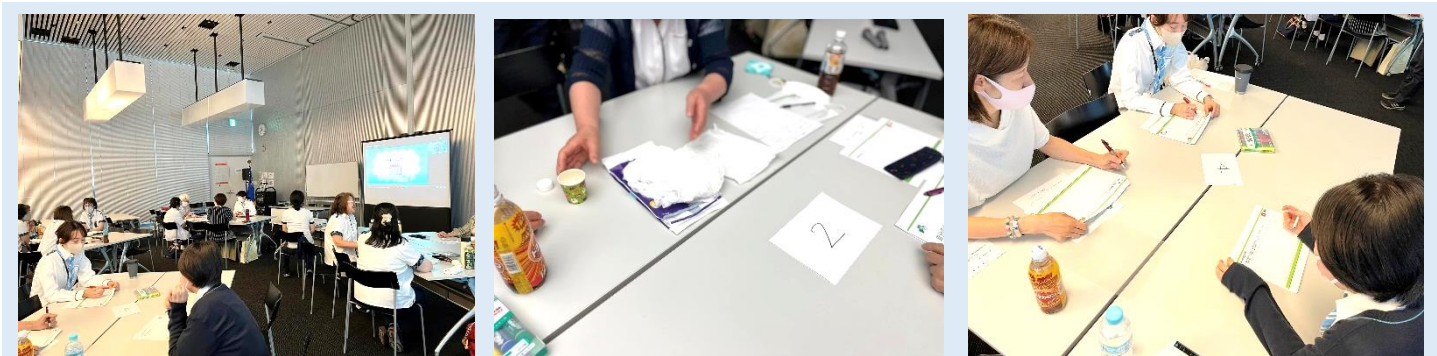
地区の仲間と過ごした2日間、名残を惜しんで閉会となりました。

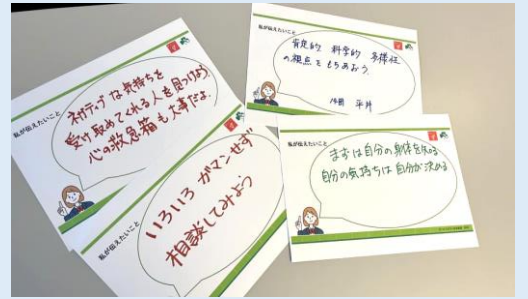
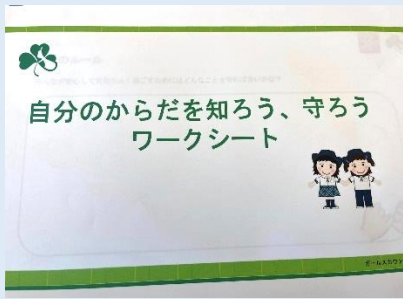
指導者研修会 第1弾 全国地区シニア部門事業用活動パックを学ぶ

7月9日(日) 盛岡市 いわて県民情報交流センター「アイーナ」において指導者研修会を開催し、日本連盟全国地区シニア部門事業用活動パッケージプログラム「自分のからだを知ろう、守ろう」を学びました。

このパックは、自分の身体の変化に不安や不調を感じる年代でもある中学生を対象に「自分のからだ」を知る機会を作れるように作成され、人との距離や自分を守る方法も知ることできるようになっています。指導者が内容を知ることによって、少女たちが学ぶ機会を増やすことができるようになるねらいがあります。

昨年度山形県連盟で開催されたガールスファンミーティングから導入されたプログラムの概要を、2時間枠で学びましたが、その短い時間でもリーダー達の学びは大きいものでした。月経について・生理用品について・避妊具について等々。参加者からは「まさに求めていたものでした」「このような学びは自分の育った年代ではなかなかできなかったのととても良い機会でした」「団の活動でも必要なことと思えた」「もっと学びたい」といった声が多く聞かれました。(次のページに写真つく)





指導者研修会 第2弾 「多様な性の理解と支援」



2024年3月3日(日)第1弾と同じく「アイーナ」において、指導者研修会を開催しました。(今回は、レンジャー部門スカウトにも受講を拡大。2名の参加がありました)

第1部 講師:岩手男女共同参画センター 佐藤 卓(すぐる)氏
「多様な性の理解と支援」について

第2部 トレーナーチームによるワークショップ

第1部では、LGBTという言葉の理解。LGBTの方は目に見えてわからないだけで左利きやAB型の人と同じくらい存在すること。最新の説では遺伝子で決まるとされていること。否定的な情報にさらされて自己肯定感が低い方が多いこと。また、相談やカミングアウトされた場合の情報は、本人の同意なく他に漏らさず、慎重に行うべきであるということ学びました。

今までこのようなセンシティブな事柄は、話すこともタブーとされてきた時代が長かったため、年代によってはなかなか受け入れ難く受け止めも難しいかも知れないけれど、多様な性を理解しつつ、性別としてではなく個人として認め合うことが大切である、学ぶことができました。

第2部では、講演の感想をシェアし合い、「もし、当事者が入団を希望した時、どうするか」についての意見交換をしました。時代とともに価値観が変わってきていますので、このような知識や情報を得ることは、非常に大切なことだと思います。

同じテーマの研修会が開かれたときには、是非沢山の方に参加していただけたら嬉しいです。

